

光明寺だより

第71号
浄土真宗本願寺派
光明寺

〒793-0030 西条市大町550
TEL 0897-53-4583

—愛媛県仏教婦人研修大会—

- ◆とき 3月11日(金) 13時～15時30分
- ◆ところ 南予文化会館
宇和島市中央町2-5-1
- ◆記念講演 【講師】中央仏教学院前学長
北畠晃融先生
- ◆参加費 3000円(昼食代含む)
- ◆申込締切 2月24日(木)

(注) 詳しくは、後日参加者にお知らせします

心に残る詩

視点

銚子市 下谷海二

昨日と同じ

空であり海であり

草や木であるけれど

元朝に見る自然は

初景色である

それは私の心が

そう見るからだ

同じものや事柄も

方向を変えて見ると

違って見えるものだ

今年はすべてに

もう一つの視点を

持つこととしたい



産経新聞「朝の詩」より

一口法話

年頭法話

「ご利益」



問題の多かった平成二十二年も終わり新しい年を迎えました。

本年も一口法話よろしく申し上げます。さて、お正月に欠かせない行事に初詣があります。今年も有名な神社仏閣は多くの人で賑わいました。報道機関の発表では、正月三が日、全国で約一億人の参拝者があったそうです。

人々は色んな「ご利益」を求めてお参りします。

家内安全、商売繁盛、病氣平癒、無病息災、学業成就、「厄除け、ポケ封じ等々」。

一日限りのにわか信者が、次々と、虫のいいお願いを神仏にしている姿を見えますと、いささか滑稽な感じもします。

もっとも、その願いは本人にとれば切実なものかもしれませんが、突き詰めれば、「思い通りにしたい」、「自分さえよければいい」という我欲に基づくものです。

厳しい見方かも知れませんが、「ご利益

を神仏に求めるのは、結局は自己中心のエゴなのです。

「商売繁盛させて下さい・・・」

「病気を治して下さい・・・」

「長生きさせて下さい・・・」

これは、神仏を祈っているのではなく、自分の欲望を祈っているのです。神様や仏さまを、自分の欲望を満たすために利用しているだけなのです。

よく普段から、あちらの神様、こちらの仏さまと、お寺や神社にご利益を求めてお参りする人がいます。中には、それを自慢する人もいますが、これは信仰心が篤いのではなく、ただ単に、欲の皮が厚いだけなのです。

しかも、残念なことに、こうした人々の欲を叶えてあげましょうという大衆迎合型宗教が実に多いのです。

ここで、はっきり申し上げておきますが、神様や仏さまに、私たちの虫のいい願いを叶えてくれる力などはありません。

もし、そんな力があるのなら、世の中に病気で苦しむ人はいないはずですし、受験に失敗する人もいないはずです。或いは景気が悪くなるということも起るはずがありません。

少し冷静になって考えればすぐ分かることです。

そうは言っても「お寺や神社は「ご利益を頂くところ」と思っている人がいる限り、この種の宗教はなくならないと思います。

親鸞聖人の「ご和讃（和語の歌）」に、

仏号むねと修すれど

現世を祈る行者をば

これも雑修となづけてぞ

千中無一ときらわるる



「意識」お念仏を口にしながら、心の中で「ご利益を願う（現世を祈る）」ような人は、全く阿弥陀さまのお心に沿うものではない。そういう人は一人として浄土に生まれることはない。

と、ありますように浄土真宗では、こうした神仏にご利益を願うということは、欲望に根ざすものとして厳しく戒めていきます。

親鸞聖人は「仏さまにこちらの願いを聞いてもらおうとするのではなく、私の方が仏さまの願いを聞いていくのですよ」と仰っています。

「南無阿弥陀仏は、あなたの人生に何が起ろうとも私が護り通して上げます。だから私を心の支えにしてこの人生を精一杯歩みなさい」という阿弥陀さまの呼び声

です。その呼び声に込められた阿弥陀さまの願いを聞いていくのですよ」と仰るのです。

これは、「ご利益宗教と呼ばれるものと全く逆の考え方です。

仏教では、「我が身に起きることは、他から与えられたものではなく、自分が作った因や縁によるものである。だから、それを引き受ける以外、自分の生きる場所はない」と説きます。

つまり、いかなる事が起きても自らの責任においてそれを果たしていくというのが仏教の人生観です。

ですから思い通りにならないからといって、神さまや仏さまに「こうして下さい」、「ああして下さい」と、お願いするのは筋が違うのです。

たしかにこの人生には色々なことがあります。人生の荒波にぶつかって碎けそうになることもあれば、余りの苦しさに、逃げ出してしまうと思うこともあります。しかし、いくら苦しくても辛くても、我が身に起きることは自ら背負っていかねばならないのです。

これが、業報（自分のまいたタネは自分に還る。だから自分で刈り取っていく）の世界に生きる私たちの身の処し方です。まことに厳しい世界です。

そんな世界に生きる私たちにとって、「どんなことがあってもあなたを護り通します。さあ元氣出して、精一杯この人生を歩んでいくのですよ」と呼んでくださる阿弥陀さまの呼び声（南無阿弥陀仏）ほど心強いものはありません。

―分かってくださる人がいる
―支えてくださる人がいる

これがこの人生を歩む私に、計り知れない安心感と生きる力を与えてくれるのです。

そんな阿弥陀さまの呼び声に込められた願いをはっきりと聞き届けていく時、私たちは自ら背負わねばならない荷物を背負って、この人生を歩んでいくことが出来るようになるのです。

そうして、そのような身（自らの荷を自らが背負っていける身）になることが、浄土真宗でいう、「助かった」ということなのです。

それはまた、長い長い迷いの「いのち」が終わり、真実に目覚めた新たな「いのち」の誕生を意味するのです。これを「前念命終・後念即生」と言います。仏になるべき身にさせていただくのです。

正確に言えば、この身のある間は「仏の仲間」（正定聚）となり、この身が終わると同時に、永遠のいのち（無量寿）をいただいて「無上仏になる」のです。

そこで、新年に当たって、山門の伝道掲示板に次のような言葉を書きました。

病気が治るのがご利益ではない
病氣も無駄にしない智慧を頂くのが
ご利益である

今年一年、親鸞聖人のみ教えに学びながら、智慧ある人生を訪ねていきたいと思っております。



「光明寺だより」を「ご家族の皆さんでお読み下さい

*次号発送予定・・・5月上旬

別離の年の出来事

2011年(平成23年)
年 回 表

お法事は亡き人を偲び、日頃忘れかけているいのちのつながりの深さに思いをいたし、この私が仏縁に遭わせて頂くための大切な仏事です。別離の年、どんな出来事があったか、改めて振り返ってみましょう。亡くなってから1年目の法事は1周忌、2年目は3回忌、6年目は7回忌12年目は13回忌となっていきます。

1 周 忌 「チリ落盤事故」 2月冬季オリンピック開催。 5月上海万博開催。宮崎
平成22年 県で家畜伝染病「口蹄疫」発生。 6月サッカーワールドカップ開催。
(2010) 9月尖閣諸島沖中国漁船衝突事件。 10月チリ落盤事「奇跡の救出」。

3 回 忌 「政権交代」 1月第44代アメリカ合衆国大統領にバラク・オバマ就任。
平成21年 5月韓国前大統領盧武鉉が自殺。 6月新型インフルエンザ世界的大流
(2009) 行。 8月民主党衆議院選挙で大勝利 第一党に躍進。

7 回 忌 「愛・地球博開催」 3月スマトラ島沖大地震死者千人超える。7月ロンド
平成17年 ン同時爆破事件発生。野口聡一搭乗のスペースシャトル「ディスカバ
(2005) リー」打ち上げに成功。 8月ハリケーンカトリーナフロリダ州に上陸。

1 3 回 忌 「光市母子殺害事件発生」 1月欧州に新通貨・ユーロ誕生。2月脳死によ
平成11年 る初の臓器移植。 4月石原慎太郎東京都知事に。10月桶川ストーカー
(1999) 殺人事件発生で、事件前に上尾署訴えたが対応せず。捜査調書も改ざん。

1 7 回 忌 「阪神・淡路大震災」 1月17日未明阪神・淡路大震災発生。 3月地下
平成7年 鉄サリン事件発生。4月学校週五日制始まる。 6月オウム真理教麻原
(1995) 彰晃逮捕。 12月巨高速増殖原子炉「もんじゅ」のナトリウム漏洩事故。

2 5 回 忌 「石原裕次郎死去」 7月世界の人口50億突破 石原裕次郎死去。10月
昭和62年 ニューヨーク株式市場大暴落(ブラックマンデー)。世界同時株安に陥
(1987) る。 11月「竹下内閣発足」。

3 3 回 忌 「ウォークマン」 5月マーガレット・サッチャー英国首相に就任。ヨー
昭和54年 ロッパで初の女性首相誕生。 7月ソニーが「ウォークマン」発表。大
(1979) ヒット商品になる。 12月マザーテレサにノーベル平和賞。

5 0 回 忌 「キューバ危機」 2月米、有人宇宙飛行に成功。 5月元ナチス親衛隊ア
昭和37年 イヒマン絞首刑。 6月サッカーワールドカップ、ブラジル連覇。10月
(1962) あわや米ソ全面核戦争のキューバ危機。



新年恒例「新春法座」開催！

さる1月12日、藤田徹文先生をお招きして、「新春法座」を開催しました。
厳しい寒さの中、30名のお参りがありました。

[講演主旨]

仏教は目覚めた人の教えであり、目覚めた人になる教えです。
何に目覚めるのかということ「いのち」の本当のあり方に目覚めるのです。
私たちの「いのち」は時間的・空間的に無量無辺のご縁をいただいた「いのち」です。
つながりを縁と言いますが、ありとあらゆるものが一つにつながることで（縁）によって、大きな「ハタラキ」となり、すべてのいのちを包み生かしてくださっているのです。
これがすべての「いのち」を生かす法則なのです。この法則を常住なる「法」と呼び、この「法をよりどころに生きなさい」とお釈迦さまは説いてくださったのです。すべての「いのち」をいかす「ハタラキ」は、大いなる「いのち」そのものでもあります。
お念仏の教えに生きた先人たちは、この大いなるいのちのハタラキを阿弥陀如来と名づけ、私たちの目覚めを促してくださったのです。

《雑感余話》

今年、初詣客の多かった神社仏閣のベストテンです。

- 一位 明治神宮・・・320万人
- 二位 成田山新勝寺・・・298万人
- 三位 川崎大師・・・296万人
- 四位 伏見稲荷大社・・・270万人
- 五位 住吉大社・・・260万人
- 六位 浅草寺・・・254万人
- 七位 鶴岡八幡宮・・・250万人
- 八位 熱田神宮・・・230万人
- 九位 氷川神社・・・205万人
- 十位 太宰府天満宮・・・200万人

もし仮に、お賽銭やおみくじなどで一人千円使ったとしますと、これら著名な神社仏閣は、一神社（寺院）当り、二十億〜三十億円超の収入があったこととなります。

昔、「一年を十日で暮らすいい男」というお相撲さんを揶揄した川柳がありました。さしずめ現代では、「一年を三日で稼ぐいい商売」という川柳が生まれそうです。ひよっとすると、初詣で一番ご利益を得ているのは神社仏閣ではないかと思ってしまう。

竹竹法師

趣味の広場

俳句を楽しむ(五十)

森本隆を



平成二十三年もはや一月が過ぎ、この号が届く頃は立春のあと、暦の上では既に春ですね。どうか今年もよろしくお願ひします。それにしても昨年末からのこの冬の寒さは大変なものでした。まだ厳寒の続く日々ですが、同時にこれから季節が微妙に動き初めて、自然界が徐々に私たちに春を教えてくれる時期です。その見本のような花である「梅」を今回は取り上げてみようと思ひます。

『歳時記』には、「冬」の季語としての「梅」がまず出てきます。「探梅」、「早梅」、「冬至梅・寒梅」といった見出し語は全て冬のものです。

探梅や枝のさきなる梅の花

高野素十

早梅や日はありながら風の中

原 石鼎

寒梅や痛きばかりに月冴えて

日野草城

近代俳句の代表的な人の三句をあげてみました。やはり梅の花に春を感じているというよりは、どの句もまだまだ冬の寒さを強く感じさせるものですね。もともと和歌の世界では、「梅」は冬にも春にも詠まれていて、俳句の世界で春のものと確定したのは、けっこう新しいようです。種類によっては冬のはじめごろから咲く梅もあり、正月の飾り花としても古来から用いられたようですから、梅を春の花として季語の列に加えるには、どんないきさつがあったのか、興味があります。長く厳しい冬の寒さにじっと耐えるしかなかった我々の先祖が、風に舞う雪の中、ぽつと開いた白梅の「花にふと春の気配を感じた、その大きい歓びは想像できますね。春という季節は、冬の間、とじ込めるしかなかった日本人の心身を開放し、農事が始まり、いきいきとした活力溢れる日々の訪れだったのです。

梅とどこぞ段々畠かな 石橋 忍月
勇氣こそ地の塩なれや梅真白 中村草田男
煙草火の吸えば明るく梅夕べ 松本たかし

『歳時記』では「春」の季語「梅」の解説の最初の解説に「— 気品高く、早春、百合に先がけて咲く。春を告げる花。—」と書かれ、例句も春の訪れを歎ぶものが多いようです。

この三句も、梅の花そのものを詠んだ句というより、春の訪れ、春の気配を感じた瞬間を素直に明るく詠んでいるようです。二句めの「地の塩」とは聖書の中に出てくる語で、「社会の腐敗を防ぐのに役立つ者」をたとえていった語です。

梅の話に戻りますが、春の季語として「梅」のほかに「紅梅」があります。何故、紅梅を「梅」と分けて別の扱いをしているか、話は簡単です。紅梅は白梅にくらべ花期がやや遅い。我々の先人たちは、春の告げる梅の開花を待ち焦がれ、白梅と紅梅の開花期の若干の差にも当然敏感だったのですね。白梅に早春の冷ややかさ、そして紅梅には春の少しの深まりと暖かさを感じとっていたのです。ですから紅梅を詠む時、少し情緒的になったりもしたのです。

紅梅の紅の通へる幹ならん 高浜 虚子
白梅のあと紅梅の深空あり 飯田 隆太
母好みし紅梅昏れて忌日暮る 大野 林火
先にあげた「梅」の三句にくらべ、これら「紅梅」の句は色彩的で抒情的、ぐっと春らしい句です。日本人の微妙な感覚と、その表わし方は素晴らしいものがありますね。



住職書作品



泉 聴 雲 紙

〔本文〕

雲に眠り
泉を聴く

BOOK
本

「西条史談」第八十一号

(創立三十周年記念号)



発行人 西条史談会
定 価 500円 (税込み)



本誌は、西条史談会発行による定期雑誌(年三回発行)ですが、本号(八十一号)は、西条史談会創立三十周年の記念号になっております。

記念特集のコーナーでは、当会の発展に心血を注がれた歴代会長さんの思い出話や、史談誌編集にまつわるエピソード、苦労話などが掲載されており、西条史談会の歩みといったものを大変興味深く読むことが出来ます。会員さんの熱い思いを乗せた特集号です。

また、注目すべき記事として、安永省一氏(光明寺総代・史談会編集部長)の執筆による「光明寺の歴史と鬼瓦」の研究論文が、十二ページにわたって掲載されております。更に、三木秋男先生(史談会顧問)の光明寺の鬼瓦についての調査研究文も併せて掲載されています。

これらの研究資料は、光明寺にとって大変貴重なもので、歴史的価値ある資料として永く保存していきたいと考えています。

「親鸞展」開催予告

3月17日～5月29日

京都市美術館



本山団体参拝

—親鸞聖人750回大遠忌記念法要—

4月16日・17日

★現在キャンセル待ちです

言葉のプレゼント



まさに、「ご利益宗教の原点です。」



テレフォン法話
0897-53-4585



★1月12日(水)、「新春法座」が行われました。厳しい寒さの中、三十名の参拝者がありました。今年も皆勤賞を目指してご参拝下さい。

(*関連記事5ページ)

★3月11日、南予文化会館(宇和島市)で愛媛県仏教婦人大会が開催されます。多くの参加者をお待ちしています。バスツアーになります。

(*関連記事1ページ)

★愈々、親鸞聖人750回大遠忌の年を迎えました。光明寺からの本山団体参拝は4月16、17日です。現在キャンセル待ちです。

★「おねはんのご案内」は、該当者に本紙と一緒に送っています。

